

## 凸凹の読み方と書き順

2022.10.24 校長 西谷 秀幸

(青空集会に向けて)

今日は漢字の勉強をします。「凸凹」を見せる。)

これは記号ではありません。これも漢字なのです。2つ合わせてなんと読むでしょう。低学年には難しいですが、高学年なら分かるでしょうか。

正解は「でこぼこ」です。

一文字ずつ見ていくと、「凸」という字は「凸レンズ」などというように、「とつ」と読みます。「凹」という字は、「凹レンズ」というように「おう」と読んだり、平仮名の「み」をつけて「くぼ(み)、へこ(み)」などと読んだりします。2つ合わさったときだけ、「でこ」「ぼこ」と読むのです。

では、次は難しいですよ。この「凸」と「凹」、2つの漢字の書き順はわかりますか。一筆書きのように1回で続けて書いてはだめです。

2つヒントを出しますね。まず、漢字の書き順には大きな約束が2つあります。それは「上から下へ」と「左から右へ」という2つです。このことが分かると、この漢字の書き順も少し分かってきますね。

もう1つヒントです。「凸」も「凹」どちらも五画です。

では、書き順を予想してみてください。時間は15秒です。どうぞ。(15秒間)

では、私が正解を書いてみますね。みんなの予想と同じでしたか。では、みんなで書いてみましょう。まずは「凸」から。「いち、に、さーん、しーい、ご」です。実は「凸」の書き順は、もう1つあって、横から「いち、に、さーん、しーい、ご」もあります。

次は「凹」。「いーち、に、さん、しーい、ご」です。

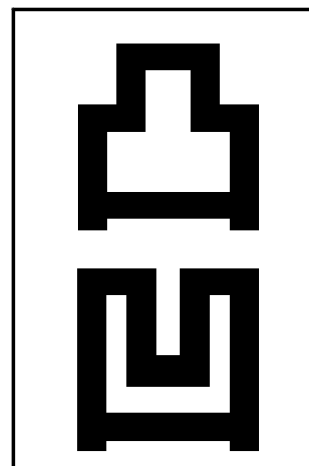
2学期から、1年生も漢字を勉強しますが、なんと、6年生までに1026の漢字を覚えるのです。

皆さんの中には、漢字は苦手…という人もいるかもしれませんが、しかし、「上から下へ」「左から右へ」という約束を忘れないで、今みたいに声を出して空に字を書いたりしながら、集中してしっかり練習すると、すぐに覚えられます。また漢字には、いろいろな秘密もあるので、それも覚えるととても楽しくなります。

秋は、「勉強の秋」ともいって、勉強をするのに一番いい季節です。先生の話をよく聞いて、たくさん漢字を覚えてくださいね。

これで朝会の話が終わります。

(裏面に「先生方へ」があります)



## 〈先生方へ〉

先日は、板橋区プログラミング推進委員会の公開授業、そして、OJT研修会の模範授業、お疲れさまでした。区のプログラミング教育推進委員会では、推進委員以外に初めて授業を一般公開することができました。また、OJT研修会では、主任教諭の先生方が、それぞれの個性を發揮した授業を公開してくれ、「自分も取り入れてみたい…」、そんな参考になる指導がたくさんあったと思います。坂井先生、立見先生、五月女先生、山中先生、小池先生、ありがとうございました。これからも、学年の壁を越え、「主任教諭」という職として、また、先輩・後輩として、助言し、互いに学び合っていきましょう。

さて、今日は「言語活動の充実」の一環として、漢字に親しめればと考え、「凸凹」というちょっと特殊な漢字を題材にしてみました。2学期から1年生も漢字の学習が始まり、各クラスで日常的に漢字の指導をしていると思いますが、興味や関心を高めるために、少し楽しい話題も取り入れてみてください。

漢字の指導は、「指書き→なぞり書き→写し書き」が基本です。書き順を確かめるために、最初に空中で書く「空書き（そらがき）」から入ることもあります。「指書き」のあとに確かめて「空書き」を入れるときもあります。また、「写し書き」のあとに、指導の確かめとして「空書き」をすることもあります。「空書き」は確認するときなど、適宜使うことが可能です。また「空書き」は、机に指をしっかりとつけて書く「指書き」をうまく組み合わせることも大切です。

「なぞり書き」は鉛筆を使って行います。薄く書いてある漢字をはみ出さないようになぞって書くのです。ポイントは「はみ出さない」ことです。「1mmもはみ出ないように書きなさい」と具体的に指示することが大切です。

最後に「写し書き」です。最初は正しい漢字を見ながら書き、最後は見ないで書く。これができれば合格です。なお、漢字の指導は、くどい説明をしないで、テンポ良く行う方が効果的です。

25日（火）は、3年ぶりの青空集会（全校遠足）です。当日の天気予報が心配ですが6年生が最高学年として活躍できるように、サポートをよろしくお願いします。26日（水）の学びのエリア研修会もよろしくお願いします。

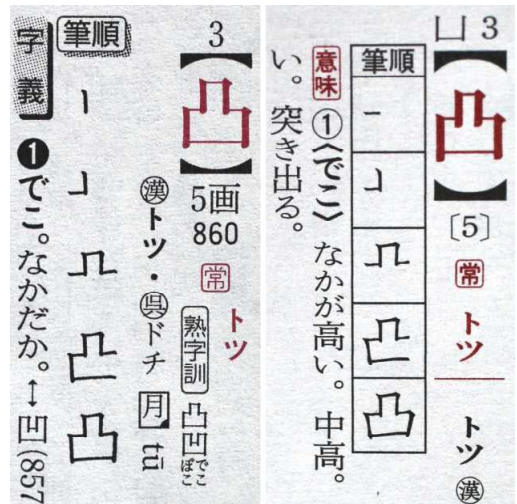
### 【資料】筆順あれこれ

漢字の筆順については、内閣告示によって定められている常用漢字や現代仮名遣いとは違い、公的な基準は存在しない。唯一、公的な関与があるものとして挙げられるのが、50年以上前に出版された「筆順指導の手びき」と題する100ページ強の小型本である。

これは、1958年（昭和33年）に当時の文部省が小学校教師向けに作成した筆順指導の「マニュアル」である。筆順の大原則と、小学生に学ばせるよう指定した当時の教育漢字881字について、筆順を列記してある。

「凸」は教育漢字には含まれなかったため、筆順はこの手引きには載っていない。何かよりどころがあるとすれば、手引きに書いてある筆順の大原則だけである。

ちなみに、「凸」の字は原則の「上→下」「左→右」のどちらをとったらよいのか微妙といえる。どちらをとっても原則通りで実のところ、現在は縦が先と横が先の2通りあるのである。



（参考：上の2種類の辞書）